

住宅利用者の意見を取り入れた高齢者向けスマートホームに関する研究

—サービス付き高齢者住宅をケーススタディとして—

○星野雅人 (Masato HOSHINO)、中村広幸 (Hiroyuki NAKAMURA)

Keywords : 高齢者、スマートホーム、サービス付き高齢者向け住宅、インタビュー調査

1 目的

本研究では「ユーザーの観点からスマートホームを分析したものはほとんどない」という点に着目し、「サービス付き高齢者向け住宅(以下「サ高住」)の利用者の意見を取り入れた高齢者向けスマートホームのモデルの提案」を最終的な研究目的としている。しかし、サ高住における「利用者」は「サービスを提供するスタッフ」「サービスを受ける入居者」に類型化できる。そこで、本稿では、研究の第一歩として、サービスを提供するスタッフを主な調査対象とした「サ高住のサービス提供者であるスタッフの意見を取り入れた高齢者向けスマートホームのモデル」を検討した。

2 方法

実査は、サ高住のスタッフ計9人を対象としたインタビュー調査を行った。調査は、高齢者向けスマートホームの設備である「緊急通報システム」「健康状態管理システム」「入退室管理システム」「スマートスピーカー」「スマート家電・機能連携」の各項目についてそれぞれの対象者に個々に尋ねた。全体で30分程度のインタビューを行った。スマートスピーカーについては、「コミュニケーション」「予定管理」「テレビ電話」の項目について尋ねた。

3 結果

調査の結果、以下のことが言及できる。

- ・緊急通報システムとスマートスピーカーの予定管理機能、テレビ電話機能についてはおおむね肯定的な回答を得られ、この機能については必要性が高いと考えられる
- ・スマート家電／機能連携についてはおおむね否定的な回答であり、必要性に疑問が残る
- ・その他の項目については肯定的意見と否定的意見が拮抗しており、各項目についてスタッフの立場や普段の業務内容、設備に対する理解度によって意見が異なっていると推察される

4 結論と今後の研究方向

スタッフの立場や普段の業務内容、設備に対する理解度などにより、スマートホームの設備に対するニーズが異なっている可能性があるかと推察できる。今後の課題として以下のことが挙げられる。

- ①性格の異なる複数の施設を対象に調査を行う
- ②職制の異なる複数の人にさらなる調査を行う
- ③「施設利用者」である高齢者を対象とした調査を行う

【主要参考文献】

- [1]内閣府，“令和元年高齢社会白書”，2019
- [2]サービス付き高齢者向け住宅情報提供システム，“サービス付き高齢者向け住宅の登録状況”，2019
- [3]Jung woo, Shina Yuri Park, Daeho Leec, 2018, “Who will be smart home users? An analysis of adoption and diffusion of smart homes”, Technological Forecasting and Social Change